



TITLE:

冬の星

AUTHOR(S):

CITATION:

冬の星. 天界 1941, 21(237): 76-76

ISSUE DATE:

1941-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168137>

RIGHT:

に、視力が淡いよりも、輝く星に對して空間の一層ずつと深淵を突通すが爲めに、空間内の本統の排列に就いては、語る材料が多くはない。吾人の望遠鏡では只ある等級の或る限度よりも明るい星を示す許りであるので、最微光の矮星は偶然接近して來る場合にのみ見られるのである。最輝星は常に最も近くにあるものとは限らない。蓋し吾人から大層遠方にある巨星は附近の矮星程明るく思はれるのを見る事が容易である。天空にある1,500の最輝星の内でも僅か100丈が矮星で、其の内僅か15丈が、太陽よりも微光である。

然し、假りに吾人が太陽より2,3光年以内の近距離の星丈けを考へるとすれば、極めて異なつた結果が判る。此の程度の空間に於いて星は凡て、(或は殆んど凡て)望遠鏡の到達點以内にある程近くにあるものである。矮星は巨星よりもずつと多く、赤色の矮星は太陽の様な黄色い矮星よりもずつと數が多い。

フアン・マリーネは太陽の16光年以内にある36個の既知星に就いて、凡ては「主系列」に屬して居るのを認めたが、一つの巨星も見當らない。4個が本統に太陽以上に明るい。3個が白色矮星である。残り28個が太陽より約3萬倍の微光の限界に達する微かな赤い矮星である。40光年離れて居るアルクトウルス星は最近距離の巨星である。

吾人は銀河の星の排列が丁度太陽の附近と同様なものであるのか判明しないとしても、矮星が巨星よりもずつと數多く、又計算の結果として、微光星の星の方が數が多いとは是認出来るに相違ないことは全く確實なものと考へて良い。

(A. S. P. Leaflet 75—佐登兒譯)

冬 の 星

彗星は山の端にあり年新た	濛 雲
星の座はかたむき枯野よこたわる	松 葉 女
夜ならべて大星 ^{シリウス} 碧く炭饑饉	岳 櫻
天狼 ^{シリウス} 高く歳 ^{シリウス} の寒きをうたがはず	//
由良の門 ^{シリウス} に大太 ^{シリウス} 隕り寒潮來	//
冬を病めば空の双子が閨 ^{シリウス} の扉に	//
光あれと宣りしより世の初明り	美 野 兒
オリオンの眞下春立つ雪の宿	普 羅
それぞれの星あらはるゝ寒さかな	太 祇
明星や光をさめて初霞	成 美